

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972500825		
法人名	有限会社 グループホームあゆ		
事業所名	グループホーム あゆ		
所在地	高知県高岡郡四万十町大正258番地2		
自己評価作成日	平成28年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成29年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に沿って、利用者の方が安心できる環境づくりに、職員全員がケアの向上に取り組んでいる。ホームの行事を通して、地域の方との交流がすごく良い関係になっている。日常的にもご近所の方が野菜や果物、おかしやご飯物など、色々な物を持ってきてくれる。施設の行事に対しては、沢山の方がボランティアで参加して助けてくれる。キャンプ場では毎年無料で場所を提供してくれて、利用者の方が焼き肉などで楽しめるように支援してくれる。幼稚園・小学校や中学校の運動会などでは、学校側からテントの下に椅子を用意して場所を確保してくれるなど、本当に優しく見守ってくれている事が伝わる。高校からも学校が作っている野菜が取れた時は、施設へ持って来てくれたりする。毎年、元旦は、初詣にお寺と神社に行き、お神酒も飲んで一年の祈願をする。天気が良ければ、町内行事のマラソンの応援を、沿道でおやつを食べながらしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detai_2016_022_kihontrue&Ji_gyosyoCd=3972500825-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年2月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の敷地内に管理者の住居があり、緊急対応が可能で、地域とも親しく交流しており、利用者は安心して明るい表情で暮らしている。
日常生活では家庭的な雰囲気を保ち、食事に重点を置いて、利用者の希望を優先した献立により、利用者は職員と一緒に楽しく話をしながら、残さず食べている。誕生日会では血鉢料理やケーキを提供し、利用者全員で祝っている。
職員会は月2回行い、利用者の状況を常に把握し合い、外部研修にも積極的に参加し、伝達講習等により所内教育にも力を入れている。管理者は看護師資格を持ち、かかりつけ医でもある協力医と協力関係を築いており、24時間連携が可能なことや、事業所での看取り経験も多いことで、利用者や家族に安心感を与えている。
地域住民や地元高校から野菜などが日常的に差し入れられ、日々の食材に活用している。毎年の事業所主催の運動会では、他事業所等から多くの参加があり、地域のイベントにもなっており、事業所の活動が地域に根付いている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:グループホームあゆ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、皆さんが集う共同スペースに掲示しているので、気にしなくても目に入る場所にある。月に2回の職員会では、理念を基本とした利用者の方の生活支援について務め、取り組んだ話し合いができています。	職員で考えた「ともに助け合い、安心して自分らしく暮らせる家」を理念とし、職員会では理念をもとにケア内容を話し合い、その人らしい生活の構築を重点に利用者ができることを検討し、生きがいが持てるケアを目指して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や幼稚園、小中学校の行事にはできる限り参加させてもらっている。事業所主催の運動会や忘年会などには、地域の方や団体の方の参加を得て交流ができています。また、日常的に近所の方から果物や野菜・お菓子などの差し入れがあり、良好な関係ができています。	事業所主催の運動会は開設以来の行事であり、大勢のボランティアやチームが参加し、毎年盛況に催され地域に根付いている。地域住民からは、日々野菜、米、果物、餅等が差し入れられ、職員は地域の防災訓練や神祭にも参加して、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者自らがキャラバンメイトや生活支援サポーターとなり、地域やご近所の方でご家庭で認知症の方を介護されているご家族の方を対象に、個別で相談を受けてストレスの軽減に努めている。地元の学生の体験学習の受け入れを積極的に行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催して利用者の状況やホームでの行事・取り組みについて報告、協議し、助言や意見を頂きサービスの向上に努めている。	会議は年6回開催し、近隣住民も参加して利用者の入退居の状況や研修報告、外部評価結果や目標達成計画について、参加者と活発に質疑応答を行い、事業所行事への協力等を得ている。議事録は議題毎に意見を分かりやすく記載し、家族の来訪時に閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、行政から地域包括支援センターの職員の参加を得ている。グループホームの連絡会や勉強会などには参加してもらい、協力関係を構築している。	事業所の運動会等のイベントに町から支援があり、日常的な協力関係ができています。運営推進会議では、事業所の状況を伝え、困難事例があればその都度、町担当者に相談している。町主催のグループホーム勉強会にも参加し、情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会には、職員を順次参加させている。事業所内では職員会の時に伝達講習や勉強会を行い、個々の理解を深めている。危険防止のためにご家族様に説明と相談をさせていただき、夜間はベッド柵を使用させてもらっている方がいる。	月2回の職員会で研修報告と勉強会を行い、職員全員で身体拘束の弊害への理解を深めている。利用者の行動を抑制する言葉遣い等があれば、その場で職員同士で注意し合っている。夜間の転倒防止のため一時的にベッド柵を使用するときは、リスクを家族に説明し了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会には、職員を順次参加させている。事業所内では、職員会の時に伝達講習や勉強会を行い、虐待のないケアに取り組むために利用者支援の在り方について話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には順次研修に参加させている。事業所内でも研修内容について報告を受け、皆が思いを共有し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時又は改定等の際は、利用者や家族に十分な説明を行い、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。運営推進会議時は、利用者および家族代表も参加してもらって、意見や要望について把握している。	運営推進会議に利用者や家族代表が出席し、意見を言う場を設けている。家族への便りで利用者の状況を伝え、運動会、忘年会、その他イベントなどの行事や家族の来訪時に、家族と個別に話し合い、意見や意向などを聞き取るようにしている。	利用者、家族への個別対応はできているが、さらに家族同士で、言葉に表わしにくい思いや意見を率直に話せる場を設定し、出された意見を記録して改善に結び付け、全家族に内容を伝えるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は職員会時や申し送り等を通じて、意見や要望を代表者に話せる体制を整えている。また、職員の中にリーダーを置き、意見や要望を集約して報告できる体制にしている。	月2回の職員会には全職員が参加し、職員の処遇、業務内容、運動会の企画、必要備品の購入など、様々な意見や要望、アイデアが出ている。また、管理者は職員と気軽に話せる職場づくりをしており、職員との信頼関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の個々の勤務状態を把握しており、それに見合った処遇をしている。職員の希望に沿った勤務割や資格取得への働きかけなども行っている。また、子育て支援として子育ての負担にならない労働時間体制を新たに設けて、職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は、各種研修会に参加できる機会を設けている。職員の経験に差があるため、その人に応じた研修先を選択して、職員会議時に研修報告を行うなど、知識・技能の向上や情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム連絡会で事例検討会や勉強会などを行い、同業者間の交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人及び家族との面談を行い、困りごとや要望に耳を傾けて信頼関係の構築に努めている。また、入居後は、利用者と馴染みの関係になれる様な関わり方を行いながら、職員との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人及び家族との面談を行い、困りごとや要望に耳を傾けて信頼関係の構築に努めている。また、入居後は、面会時に要望を聞いたり、日ごろの様子を伝えたり、介護記録に目を通してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の対応の様子を、職員間で細やかに情報交換して、行動や心理状態の把握に努め、必要な環境整備に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で共に家事等を行うことで、職員は利用者のこれまでの暮らしから得た知識や技術を学んでいる。また、日々の暮らしの中で、利用者が喜ぶこと、生きがいの様に感じてもらえる事を重点に置いて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関わりが継続できるよう、自由に面会や外出の機会を設けている。家族からの要望は出来る限り受け入れて信頼関係を構築しており、どんな事でも話ができると共に協力もしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来訪もあるが、昔馴染みの場所や知人に会いに出かけたり、行きつけの理美容室を利用するなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。	利用者の自宅周辺に出かけて関係が途切れないよう支援しているが、長年住み慣れた事業所周辺も馴染みの場所になっている。行きつけの理髪店へ職員が付き添ったり、馴染みの美容師が訪問するほか、日々来訪する地域住民と、新たな馴染みの関係ができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で過ごす時間を多く取り入れて、馴染みの関係づくり、関わりあい、支えあえるような関係づくりに努めている。日中は全員でできる作業を考え、一人一人の持つ能力を生かせる場の提供に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族に面会している。本人や家族も来訪してくれる。また、事業所の行事などにも参加してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、何気ない会話や表情、しぐさなどから本人の思いや希望を汲み取る事に努め、普通に感じてもらえる暮らしができるように努力している。	利用者の基本情報を把握し、日々の暮らしの中での利用者への気づきなどを、介護記録や業務日誌に記録しながら、月2回の職員会で利用者全員のカンファレンスを行い、利用者1人ひとりの思いを共有して、本人の希望することができるよう、さりげなく支援している。	利用者の日々の行動や思いは、介護記録等と月2回の職員会で共有できているが、なお1人ひとりの過ごし方、生活歴の新たな情報、生活リズム等が一目で確認できるような、利用者毎の個人シートを作成するなど、取り組みの工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、親類や近所の方、担当のケアマネジャーなどからこれまでの生活歴や暮らし方などの情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の表情・雰囲気・行動など現状を観察し、できる事出来ない事、いつもと違う状態に素早く対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会で、個別の介護計画についてカンファレンスを行っている。家族との面談や電話で要望を確認したり、職員の気づきも踏まえ、必要に応じて介護計画を見直している。	利用者及び家族の意向や、利用者ができること等を定期的にアセスメントしている。月2回の職員会で、利用者全員のカンファレンスを行い、利用者が役割を持つことを大事に介護計画を作成している。計画は6カ月又は、状態変化が生じたときにその都度、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日々の生活が分かりやすいように書いて、職員全員で情報の共有につなげ、実践や介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族に安心して暮らしてもらうために、何が最善なのかを考えてサービスに繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の方々から協力を得て、年間行事や地域行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方が超高齢で、長時間の待ち時間に苦痛を感じたり、病気の感染などにも心配されるため、現在は月に一度の訪問診療をお願いしている。急変時は状態に応じて、夜間でも対応して頂いている。	入居時に説明を受け、本人・家族が全員納得して、協力医をかかりつけ医とし、毎月の訪問診療を受けている。緊急時に備え24時間医療連絡体制も整えている。専門医の受診は原則家族対応であるが、家族が行けない場合は職員が同行している。受診情報は家族に送付し、職員は個人ファイルで共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師資格を持つ職員が2名おり、健康管理を行い本人の体調の変化に応じて必要な処置を行うとともに、医療機関への相談や受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は見舞いに行き、利用者の不安の軽減に努め早期退院に向けた支援を行っている。退院後も安心して治療が受けられるよう関係者と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の在り方について十分な説明はしている。家族が納得のいく方向で随時対応している。	入居時に利用契約にある看取りの考え方を家族に説明し、同意を得ている。看取りの指針と家族の同意書も作成している。管理者をはじめ看護師資格のある職員が在籍し、協力医と連携して看取りの体制を整えている。開設当初から20名ほどの看取りを行い、経験を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や、事故発生時の応急処置等の初期対応について訓練や話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や避難訓練を行うことで、防災意識の向上に努めている。地域の方々にも参加してもらっている。また、地域の防災訓練にも参加するなどしている。	消防署の協力を得た火災訓練を年1回、職員による自主防災訓練を年2回実施し、訓練には周辺の住民が参加している。地域住民にも利用者避難の担当を決めるなど、協力体制をつくっている。非常用の加工食品、水、米、日用品などを3日以上備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室には利用者の許可を得ている。利用者の方の誇りやプライバシーを損ねないような声掛けをするように常に意識し、介護にあたるように気を付けている。	理念の「自分らしく暮らせる家」を日々確認しながら、利用者の人格や個性を尊重したケアに取り組んでいる。トイレには小声で誘導し、入浴は前の利用者の入浴が完全に終わったことを確認して支援するなど、プライバシーに配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思決定できるような声掛けを行い、本人に意思の確認をしてから行動するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか希望に沿える努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は定期的に行くか、又は来てもらっている。服装は本人の意見を聞いて用意させてもらっている。新しい服などについてはご家族様に相談させてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど、その人にできる事を提供して一緒に作業する事に努めている。旬の食材を取り入れたり、誕生会や外出してのバーベキューなど季節や行事を取り入れて、食事を楽しめるよう努めている。	看護師資格のある管理者が栄養にも配慮して献立を作成し、地域住民に提供された旬の食材も使用して職員が調理している。利用者の「肉」や「魚」料理の要望にも応えている。利用者は食材切りや食器洗いなど、本人が希望することを手伝い、会話しながら職員と一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人に合わせて提供し、形態も個人に合わせている。食事量や水分量は毎日チェックしている。少ない人には、ジュースや栄養ゼリー等で補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に声掛けを行い、個人に合わせた口腔ケアを行っている。できない人に対しては職員が介助している。義歯洗浄剤は週一で使用している。歯ブラシ・コップは、毎日洗浄剤につけて消毒をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後には、トイレの声掛けを行っている。利用者個々の排泄パターンやサインを把握して、トイレ誘導等を支援している。	排泄チェック表に記録しながら、基本的にトイレ誘導による機能の維持や自立に向けた支援をしている。利用者の排泄パターンに留意し、行動や仕草を常に見守りながら、トイレへ誘導している。利用者は日中は紙パンツを使用し、夜間はオムツやポータブルトイレを使用する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入を行い、排便の量・間隔などを確認している。また、水分量の確認・運動歩行の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の方ほぼ皆さんに毎日入浴の声掛けを行っている。希望の時間に合わせて入浴支援を行っている。入浴を拒む利用者には時間を置く、又は違う職員が声掛けをするなどの対応をしている。決して無理強いくことなく個々に合わせた支援を行っている。	毎日利用者に入浴を声掛けし、利用者の希望する時間帯に入浴している。夜間や朝の入浴にも希望があれば、対応できるようにしている。入浴を拒否する利用者には、無理強いせず、声掛けの方法を変えるなどの工夫をして、入浴につなげる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室で浅眠されたり、テレビを見たり、ホールで皆さんと一緒に過ごしたりと自由に過ごされている。夜間の巡回時にも皆さん良眠されていて、不眠を訴える方はいない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からの薬の説明は、薬を受け取る職員が聞き、情報を共有している。また、個別に薬の説明書を頂いているのでいつでも確かめる事もできる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方が楽しみながらできる作業を提供している。家事手伝い、掃除や縫い物や編み物など個人の思いや身体状況に合わせてできる作業を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にいつでも添えるように柔軟に対応している。天気の良い日や町内での行事やイベントにはできるだけ参加できるようにしている。	利用者は日常的に近隣を散歩しており、車いすの利用者も職員や他の利用者に協力してもらいながら一緒に出かけている。地域のイベントや小・中学校、幼稚園の運動会や初詣にも職員と共に出かけ、家族と一緒に馴染みの場所へ外出する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常時、事業所でお金は管理させてもらっているが、買い物やお祭り事などでお金を使う機会がある時は、ご本人に渡して好きなものを選んで買う支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から荷物が届いた時や、ご本人から電話をしたい時などは電話で話ができるように支援している。また、手紙やはがき、年賀状などは施設の方から届くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感を取り入れるために四季折々の花を飾ったり、利用者の方が共同で作った季節に関する作品を掲示して、季節を感じられるようにしている。	玄関からすぐに居間兼食堂が一続きになっており、手狭ではあるがテーブルの配置などを工夫し、団欒ができる家庭的な雰囲気をつくっている。各居室に通じる長い廊下に椅子を置いて休めるようにしたり、壁面にはぬり絵など利用者の作品を飾って身近な空間にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・ベランダには縁台や椅子を置き、一人になりたい時や気の合った利用者同士が、思い思いに過ごせるようにしている。また、玄関を出た所にも縁台を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、できるだけ本人の見慣れたものや使い慣れたものを持ってきてもらう様に声をかけている。利用者の絵画や自分の部屋であるといった安心できるものが飾られている。	各居室の入口には事業所で暖簾を掛け、ドアを開けても直接見えない工夫をしている。居室には馴染みの筆筒やイス、仏壇、縫いぐるみ、職員と共同で作った千羽鶴等が飾られ、その人の思いに沿って安心して生活できる居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・廊下・浴室・トイレ等には手すりを設置している。出入り口にはスロープ、踏み台などを設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない